

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893700025
法人名	社会福祉法人伊方社会福祉協会
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 5 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三崎つわぶき荘は、平成25年6月に開設したばかりの事業所です。三崎地域の方言が飛び交い、笑いや歌声の絶えない賑やかな日々を送っています。毎月のホーム喫茶では、グループホームの利用者が、特養の入居者をおもてなししています。そこでは「90才のウエイトレスです。」と利用者の初々しい笑顔が見られます。またミュージックケアを導入し、楽しく身体を動かしながら、体力に合わせて身体機能の改善を図っています。職員は試行錯誤しながら「誠実、尊敬、尊重」をモットーに利用者一人ひとりの生き方、思いを大切にし、それぞれの自信につながるように持っている力を発揮できる場面作りを努めています。またご利用者同士が認め合い、励まし合い仲良く過ごせる関係を作り、安心して暮らせる場所を目指して日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は当初三崎港近くに建設を予定していたが、東日本大震災後、高台に変更され、併設の地域密着型特別養護老人ホームとともに、災害時には地域の避難場所に指定されている。事業所の内覧会には200名以上の見学者があり、地域住民の高齢者福祉の拠点となるよう期待を寄せていることを伺うことができる。また、窓から見えるパノラマは絶景で、利用者や見学者を楽しませている。管理者と職員は、「誠実」「尊重」「尊敬」を念頭におき、利用者一人ひとりに寄り添いながら支援している。介護力向上委員会を立ち上げ、利用者の残存能力の向上を図るために、楽しみながら身体を動かす「ミュージックケア」を行ったり、「ほのぼの喫茶」をオープンしたりするなど、アイデアを満載したサービスに活かしながら利用者にとって生活に楽しみが持てるよう支援している。管理者をはじめ職員全員で利用者本位のケアが提供できるよう取り組んでおり、今後、さらに地域に根ざした事業所となることが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
(ユニット名)	たんぼぼ
記入者(管理者)	
氏名	井上 祥子
評価完了日	平成 26 年 5 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設前に全職員でグループホームの理念を作り、全職員が理念を共有できるように両ユニットの共有スペースに掲示している。理念にあるように地域の方から必要とされる場所となるよう日々努力を重ねているますが、ご利用者様一人ひとりの個性に合わせたケアの難しさも感じている。</p> <p>(外部評価) 開設前に、職員全員で思いや考えを出して話し合い、理念を作成している。理念は利用者や訪問者にも見えるよう、職員が手作りをして共用スペースに大きく掲示している。開設から1年が経過し、職員は理念を実現できるよう日々努力している。管理者は、今後も職員全員で理念を共有し、振り返りながら実践につなげていこうとしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎月のホーム喫茶や茶道クラブ、法話を聴く会では地元のボランティアの方々に来てもらっている。また運動会や文化祭、秋祭り等の地域行事に参加したり、高校生の職場体験等を通じて交流を図っている。夏には夕涼み会を行い、地域の方達を招待し、子供からお年寄りまで多くの方と交流し楽しいひとときを過ごすことができた。</p> <p>(外部評価) 地域に根ざした運営を心がけて実施しており、小・中学校や地区の運動会、秋祭り、駅伝大会などの地域行事に積極的に参加したり、文化祭へ出展したりするなど地域住民と交流をしている。併設する地域密着型特別養護老人ホームと合同の夕涼み会は、多くの家族や近隣住民の参加協力を得て盛大に開催することができた。また、近隣小学生の訪問や高校生の職場体験を受け入れたり、カラオケ愛好会や住職の法話などボランティアの訪問が頻回にあり、日常的に地域とのつきあいを行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域へ向けての具体的な取り組みは、行えていない。伊方町からの依頼を受け、介護相談員の研修会に介護力向上の取り組みと題して出前講座を行う予定。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告し たり、実際に行事等に参加してもらい、意見をいただいでい る。また、いただいた意見をもとに改善に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、町職員、地域包括支援セン ター職員、介護相談員、区長、民生委員等の参加を得て開催 している。会議では、分かりやすくスライドを使用して事業 所の活動状況や課題等を報告する工夫をしており、参加者と 活発な意見交換が行われている。開設1年目であるが、参加 者に喫茶ほのぼのを体験してもらったり、テーマにも工夫す る等積極的な会議となっている。</p>	<p>今後、交流のある小学校の先生や消防署、駐在所など 多方面に会議への参加を呼びかけ、参加者の意見を反 映しながら、さらに充実した会議が開催されることを 期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事業所内で起きた事故、ひやりはっとは全て伊方町に報告 し、意見やアドバイスをいただいている。運営推進会議のメ ンバーになっていただいているのでアドバイスを受けてたり、 疑問点等の相談をしている。また包括支援センターと連携を 取り、利用者のこれまでの生活の様子等情報提供していただ き、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の状況や利 用者の相談、ヒヤリハットの実情などを報告し、日頃から気 軽に相談できる良好な関係が築かれている。また、2か月に 1回介護相談員の訪問を受け入れており、利用者の良き相談 相手となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束廃止虐待防止委員会でチェックリストを作成し、毎月全 職員が記入することにより、身体拘束をしないケアについて の理解を深め実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケアに取 り組んでいる。管理者は研修等に参加し職員全員に指導や伝 達を行い、身体拘束を正しく理解してケアが実践できるよう 努めている。また、法人の拘束廃止虐待防止委員会が作成し たチェックリストを職員全員で毎月記録し、不適切なケアが 行われていないか振り返るようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ユニット会等で介護上注意しなければならないことを話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設前の研修中に、権利擁護の研修を行ったのみで、学ぶ機会を持つことができなかった。今後研修会への参加や、内部勉強会等で職員への周知、理解を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前の調査時や契約時に時間を取り、ご家族、ご本人に対して説明を行い、入居の意向を決めていただいている。入居前にセンター方式を使用し、ご家族から情報を得ており、それをもとに入居後の生活を説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話等で日頃の様子を伝えたり、ご家族の意見や希望を伺っているが意見や希望は少ない。また正面玄関にご意見箱を設置している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加して、意見や思いを言い表せる場として活用されている。また、家族の面会時や家族会開催時には意見や要望を聞くように努めている。開設して間もないため、家族からの意見等はあまり聞かれないが、管理者から些細なことでも迅速に対応しようとする姿勢が伺える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 個人面談の機会を設け、職員の意見や提案を聞き反映できるようにしている。また職員会、リーダー会、各種委員会、ユニット会等を毎月開催し、様々な視点で職員の意見を聞くよう努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るように努めており、働きやすい職場環境や関係づくりを目指している。職員は日々の業務の中で気がついたことを管理者に話すことができ、ユニットリーダーを通じて意見を伝えることもできる。また、管理者はチームケアの重要性を認識し、職員間で話し合うことが大切であると考えており、若い職員の豊かな発想などを取り入れ、実現するように努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 希望者には正職員登用の機会を設け、意欲を持って働けるような環境の整備を行っている。また勉強会や研修会への参加を積極的に促し、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 外部研修の情報を公開し、希望する研修に参加できるようにしている。また研修終了後は研修報告を行い、職員への周知を行っている。今後は職員の段階に応じた年次研修計画を立て、総合的な人材育成に取り組みたい。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の研修会等に参加し他グループホームと交流することはあるが、相互訪問等の機会は作れていない。伊方町の保健介護課に町内のグループホームが一同に会し交流できる場を提供して頂きたいと依頼している。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 入居前の面談時にご本人やご家族の思いを聞き取っている。また可能な方にはご家族に、センター方式を記入してもらい、思いや要望を伝えていただいている。また入居後は、日頃の様子をよく観察し、しっかり向き合い、ご本人の思いに耳を傾け、良い関係を築けるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が入居前に見学に来られた際には、全職員がその場に立ち会い、困っていること、不安なこと、要望等について聞き取りを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面談、担当ケアマネジャーからの情報により柔軟に対応している。家族面談時等に必要に応じて相談窓口（包括支援センター）の紹介や他のサービス利用について情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、入居者と一緒に洗濯物干しや食事作り等できることを手伝っていただき、共に暮らしているという気持ちで日々関係を築いている。利用者同士は、時に口論になる場面もあり良い関係を築くことは難しいと感じている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者がご家族に会いたい時には電話で話をしたり、面会にきていただくよう依頼している。毎月の広報でご利用者の生活の様子を報告すると共に、ご家族からも情報をいただきながら、ご利用者を一緒に支えるよう協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の行事に参加し、馴染みの場所で近所の人に出会い旧交を深めている。 (外部評価) 利用者は行きつけの喫茶店にケーキを食べに行ったり、行き慣れた美容室に出かけられるよう支援している。友人や知人の訪問時には、職員は快く向かえ入れている。手紙を書く利用者には、連絡を取り持つ等の支援を行っている。毎月、発行する「にこにこ通信」には、利用者に一筆添えてもらい送付しており、家族は大変喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士で口論になることがある。ご利用者同士での関わりが困難だと感じる場合は、間に入り対応するよう努めている。また一人ひとりが大切な人だと感じてもらえるようご利用者の間に入り円滑に関係性を築けるよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 2階の特養入居になった方1名のみだが、これまでの生活の様子や習慣等を詳しく伝え、継続した支援が行えるよう連携をとっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話などから本人の思いや希望、意向の把握に努めている。対応が困難な場合は、24時間シートを活用し様々なサインを見つけ出せるよう努めている。 (外部評価) センター方式を活用し、家族への協力を得ながら情報を収集し、利用者の思いを把握するよう努めている。日頃から職員は日々の生活の中で利用者向き合いながら、会話から思いや意向を聞き取るよう努めている。思いの把握が困難な利用者には、24時間シートを活用し把握できるよう努めている。また、カンファレンスには、利用者自身にも参加してもらい、意向を確認している。管理者は、職員全員で利用者寄り添いながら支援できるような体制を築きたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面談時のフェスシート等を活用し、その人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、ご本人の意向に添った支援を行えるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し、職員間での情報の共有と連携を図り現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) モニタリングを行うと共に、面会時や電話にて家族の要望を伺ったり、ご本人と話をしたり、普段の生活の中での課題について話し合い、ケアプランを作成している。毎月の受診時に主治医から助言を頂き、ケアに活かしている。ご家族の希望や意向を聞いているが、特にないと言われる方が多く課題である。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映して、計画作成担当者と管理者を中心に話し合い、介護計画を作成している。事業所では介護計画とモニタリング等をすべてパソコンで管理しているため、職員全員が容易に内容を把握し共有することができる。開設して1年が慌ただしく過ぎ、管理者は介護計画が内容的にも充実したものになっているのか、今後利用者一人ひとり見直しを行い、より良い介護計画となるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ご利用者の日々の様子、ケアの実践等できる限り、ケース記録に詳しく書く事で、職員間での情報の共有ができており、介護計画の見直しの際に活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物やドライブ、散歩などその時々々の要望に沿えるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の訪問美容サービスや茶道クラブ、和尚さんによる法話等地域の方達と協働し様々な行事を行っている。また地域の催し物の情報を得て参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人や家族の希望によりかかりつけ医を決め、受診してい る。併設特養の嘱託医をかかりつけ医としている利用者は、 月2回訪問診療を受けており、夜間や休日の対応も可能と なっている。また主治医からの紹介による専門医の受診や歯 科受診等は職員が付き添い支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援してい る。往診をしてもらえることなどから協力医をかかりつけ医 に変更する利用者もいる。月2回、協力医の往診や訪問歯科 診療があり、利用者の健康管理をしている。基本的に家族が 同行し受診することとしているが、困難な場合には職員が同 行し、受診結果を家族に報告している。緊急時は協力医のみ でなく、その他のかかりつけ医も快く対応してくれている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週1回併設の特養看護師によるバイタル測定や医療面に關す る助言やアドバイスを頂いている。看護師とは24時間連絡 が取れ、常に相談に応じてもらえる体制を整えている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時にはご家族同席のもと必要な情報を伝え、また退院時 には医療連携室を通じて入院時の様子や退院後の生活におけ る注意事項等の情報交換を行っている。また病院関係の研修 会等にも参加し関係作りを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や看取りの指針を定め、入居時にその説明を行い同意 を頂いている。まだ看取りの経験はないが、毎月看取り委員 会を開催し、重度化への対応や看取りの指針、マニュアルを 作成し、ご本人やご家族の意向を確認しながら、医師、看護 師、職員が連携し安心して最期を迎えられるような支援に取 り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における(看取り)指針」を定め、協力医 と連携を図りながら看取りに取り組む姿勢がある。利用者や 家族の意向をその都度確認しながら、利用者の思いを大切に して終末期を過ごせるよう取り組む方針である。看取りなど の勉強会や話し合いを行い、職員への終末期等への不安を取 り除けるよう努めていく姿勢がある。</p>	<p>今後、終末期や看取り支援を経験することが考えられ るため、終末期の支援のあり方や事業所の対応を段階 ごとに利用者や家族、医師等と話し合い、意向を確認 しながら、対応方法を職員全員で共有していくことが 望まれる。また、職員が終末期等への不安を感じるこ とがないようミーティングや勉強会を繰り返し行い、 利用者や家族が希望する看取り支援が行える取組みを 期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。今後定期的に応急手当や救命処置の研修を取り入れ、実践に対応できるようにしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署も参加し避難訓練を実施している。その際消防署より全員避難に時間がかかりすぎると指摘を受けた。運営推進会議で地域の自主防災組織の協力が得られると助言をいただいたので、今後地域の支援、協力体制を築いていく予定である。 (外部評価) 開設して1年が経過し、消防署の協力を得て避難訓練を2回実施している。町から指摘された課題を踏まえて、今後は地域住民の参加協力を得た防災訓練が行えるよう体制づくりを検討している。事業所は地域の避難場所に指定されており、地域との協力体制を整え、利用者や地域住民の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組む姿勢がある。また、3日分の備蓄品等を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であることを忘れず、言葉かけや対応については、十分注意し、個人の人格を尊重しプライバシーを損ねないよう努めている。 (外部評価) 「誠実、尊重、尊敬」を3Sとして、職員全員で意識しながらケアに取り組んでいる。管理者は、利用者の人格を尊重するためには丁寧な言葉づかいをすることが大切であると考えており、職員全員が正しい言葉づかいを理解し、利用者のプライドを傷つけない配慮が行えるよう指導している。その配慮は、利用者同士にも伝わっており、相手の言葉を否定しない和やかな対話を聞くことができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者が答えやすいような質問の仕方をしたり、表情を読みとったりとその方に応じた声かけを行い自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるよう努めているが、時間を気にしてしまうこともある。ご本人の意向を尊重して、希望されたときのみ行事、レク等へ参加して頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お気に入りの洋服を把握するよう努め、誕生日には服などプレゼントしている。爪にマニキュアを塗ったり、訪問美容ではご本人の希望によりパーマや毛染め等行い、おしゃれを楽しんで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の得意なご利用者と一緒に食事作りや片づけを行っている。また嗜好を伺ったり、食べられないものに関しては代替えにて提供している。	
			(外部評価) 献立は、月2回行事メニューを取り入れ栄養委員が作成し、職員が調理をしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、笑顔で会話しながら食事をしている。誕生会には、地元のケーキ屋さんにてケーキを注文して提供している。食事の用意や片付けなど、利用者ができることを積極的に手伝っている。また、食事を楽しむことができるよう外食や流しそうめん、たこ焼きパーティなどを取り入れている。今後は、利用者の嗜好調査をして一人ひとりの好みを把握して、食事に楽しみが持てるよう支援していく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量の確認を行い、食事量が少ない時には好きなものを提供している。また食べられないものに関しては代替えを提供している。毎月介護力向上委員会を開催し水分1日1500cc摂取を目標に掲げ、好みの飲み物やこまめな水分補給で水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分でできる方は声かけを行っている。介助の必要な方でもできる範囲までご自分で行って頂くよう努めているが、毎食後はできないこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表により、トイレ誘導のタイミングや一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立ができるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。失禁のある利用者には紙パンツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせた排泄支援をしている。トイレは清潔で、車いすでもゆとりを持って使用することができる。トイレには、はね上げ式アームレスト等が備えられ利用者がより安心安全に使用できるよう配慮している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排泄チェック表により排便の有無、量や状態も記入している。介護力向上の取り組みに基づき、食事、水分、運動に留意するとともに、食物繊維ファイバーを飲用しできるだけ下剤に頼らず自然排便できるよう支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 基本は同性介助で入浴を行っている。勤務の都合で同性介助が行えない場合は異性介助となっている。曜日を決めずに入浴の声掛けを行っているが、ご本人の希望する時間帯の入浴は難しい。入浴を嫌がる方には、声掛けの仕方を工夫して入浴して頂いている。入浴をしない時には、清拭や足欲を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者は2日に1回入浴することができる。利用者の希望に沿った入浴支援を心がけており、希望により毎日入浴することもできる。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫している。入浴はできる限り同性介助を心がけており、心地よく入浴ができるよう支援している。バスタブは檜で作られており、使用後は取り外して乾燥させ、清潔に保っている。浴室は、檜の香りがよく利用者が楽しんで入浴できるよう工夫している。また、特殊浴槽も完備されているが、現在使用している利用者はいない。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活のペースに合わせて休みたい時に、休息が取れるようにしている。居室に限らず、ご本人の落ち着ける場所で休んで頂けるよう配慮し、リズムを大切に、安心して休息できるよう心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者の服用している薬についてファイルを作成し、種類、作用、量について理解できるようにしている。また症状の変化は、ケース記録に詳細に記入している。誤薬や飲み忘れを防ぐため、マニュアルに従い2名でチェックし配薬している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった役割に配慮している。好きなテレビ番組を録画し、お好きな時間に見て頂いたり、花札、散歩等で気分転換が図れるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事に参加したり、季節に応じて外出計画を立て実施している。またご本人の希望に添えるよう努めているが、急な希望への対応は難しい。	
			(外部評価) 玄関先や建物周囲は広く、日頃から敷地内を散歩したり、敷地内にある畑に職員と一緒に水やりをしたりしている。定期的に地域行事に参加したり、ゴミ捨てに行くなど、利用者が少しでも外に出る機会を作っている。また、高台の玄関から大海原を見渡ししながら、ベンチに座り外気浴を楽しむことができる。年間行事やドライブ計画を立て、初詣や足湯に出かけ、利用者が楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に現金は預からないことを説明し同意していただいている。外出時には、立て替え払いで支払いをしている。欲しい物や必要な物は職員が代わりに購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人より電話をかけたいと希望がある時には、出来る限り対応している。また毎月発行している広報の伝言板にご本人から家族へのメッセージを書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 適切な温度や湿度調整を心がけている。花やディスプレイで季節感を取り入れ、居心地の良い空間作りに努めている。トイレや居室が解るように目印を掲示したり、自宅付近の写真を貼ったりして混乱しないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) リビングは明るく広々としている。畳コーナーやソファが置かれ利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。テーブルには利用者が活けた花が飾っており、廊下の壁にも利用者が作成した作品や書が飾ってある。環境整備が行き届いており、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮している。また、窓から見えるパノラマは絶景で、利用者や訪問者は眺めを楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれが思い思いの場所で過ごせるよう、ソファを置くなどして工夫を行っている。気のあった入居者同士で席を隣にしたり工夫しているが、テレビや通路を巡ってトラブルになることもある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ベッドや家具は施設のものを使用して頂いている。ご本人の使い慣れた家具を持って来られた方には好みに合わせて配置している。家具だけでなく、位牌や思い出の写真を飾ったり、花の好きな方は花を生けたり工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやクローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。利用者の使い慣れた椅子や整理たんす、テレビ、仏壇等を持ち込むことができ、家族との写真や家族を描いた絵が飾るなど、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。また、ハギレを使用して職員と利用者が一緒に作った暖簾がそれぞれの居室にかけられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「わかること」「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い、今ある力を最大限発揮できるように支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893700025
法人名	社会福祉法人伊方社会福祉協会
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 5 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三崎つわぶき荘は、平成25年6月に開設したばかりの事業所です。三崎地域の方言が飛び交い、笑いや歌声の絶えない賑やかな日々を送っています。毎月のホーム喫茶では、グループホームのご利用者が、特養の入居者をおもてなししています。そこでは「90才のウエイレスです。」とご利用者の初々しい笑顔が見られます。またミュージックケアを導入し、楽しく身体を動かしながら、体力に合わせて身体機能の改善を図っています。職員は試行錯誤しながらも「誠実、尊敬、尊重」をモットーにご利用者一人ひとりの生き方、思いを大切に、それぞれの自信につながるように持っている力を発揮できる場面作りに努めています。またご利用者同士が認め合い、励まし合い仲良く過ごせる関係を作り、安心して暮らせる場所を目指して日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は当初三崎港近くに建設を予定していたが、東日本大震災後、高台に変更され、併設の地域密着型特別養護老人ホームとともに、災害時には地域の避難場所に指定されている。事業所の内覧会には200名以上の見学者があり、地域住民の高齢者福祉の拠点となるよう期待を寄せていることを伺うことができる。また、窓から見えるパノラマは絶景で、利用者や見学者を楽しませている。管理者と職員は、「誠実」「尊重」「尊敬」を念頭におき、利用者一人ひとりに寄り添いながら支援している。介護力向上委員会を立ち上げ、利用者の残存能力の向上を図るために、楽しみながら身体を動かす「ミュージックケア」を行ったり、「ほのぼの喫茶」をオープンしたりするなど、アイデアを満載したサービスに活かしながら利用者にとって生活に楽しみが持てるよう支援している。管理者をはじめ職員全員で利用者本位のケアが提供できるよう取り組んでおり、今後、さらに地域に根ざした事業所となることが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三崎つわぶき荘

(ユニット名) ひまわりユニット

記入者(管理者)

氏名 井上 祥子

評価完了日

平成 26 年 5 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設前に全職員で理念を作り、見える場所に掲示している。迷った時には原点に戻るよう心がけているが、まだまだ実践できていないところもある。</p> <p>(外部評価) 開設前に、職員全員で思いや考えを出して話し合い、理念を作成している。理念は利用者や訪問者にも見えるよう、職員が手作りをして共用スペースに大きく掲示している。開設から1年が経過し、職員は理念を実現できるよう日々努力している。管理者は、今後も職員全員で理念を共有し、振り返りながら実践につなげていこうとしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 文化祭、運動会、秋祭り等地域行事に参加している。小学生の来荘やカラオケ愛好会等の訪問もあり地域の方たちとの交流の機会となっている。また地域の運動会や駅伝大会にはチームを作り積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 地域に根ざした運営を心がけて実施しており、小・中学校や地区の運動会、秋祭り、駅伝大会などの地域行事に積極的に参加したり、文化祭へ出展したりするなど地域住民と交流をしている。併設する地域密着型特別養護老人ホームと合同の夕涼み会は、多くの家族や近隣住民の参加協力を得て盛大に開催することができた。また、近隣小学生の訪問や高校生の職場体験を受け入れたり、カラオケ愛好会や住職の法話などボランティアの訪問が頻回にあり、日常的に地域とのつきあいを行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域に向けての具体的な取り組みは、行えていない。伊方町からの依頼を受け、介護相談員の研修会に「介護力向上の取り組み」と題して出前講座を行う予定である。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告し たり、実際に行事等に参加していただき、意見をいただい ている。また、いただいた意見をもとに改善に取り組んでい る。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、町職員、地域包括支援セン ター職員、介護相談員、区長、民生委員等の参加を得て開催 している。会議では、分かりやすくスライドを使用して事業 所の活動状況や課題等を報告する工夫をしており、参加者と 活発な意見交換が行われている。開設1年目であるが、参加 者に喫茶ほのぼのを体験してもらったり、テーマにも工夫す る等積極的な会議となっている。</p>	<p>今後、交流のある小学校の先生や消防署、駐在所など 多方面に会議への参加を呼びかけ、参加者の意見を反 映しながら、さらに充実した会議が開催されることを 期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事故、ひやりはっとは全て伊方町に報告し、助言をいただ いている。運営推進会議のメンバーになっていただいている のでアドバイスを受たり、疑問点等の相談をしている。また 包括支援センターと連携を取り、ご利用者のこれまでの生活 の様子等情報提供していただき、サービスの向上に努めてい る。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の状況や利 用者の相談、ヒヤリハットの実情などを報告し、日頃から気 軽に相談できる良好な関係が築かれている。また、2か月に 1回介護相談員の訪問を受け入れており、利用者の良き相談 相手となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束廃止虐待防止委員会でチェックリストを作成し、毎月全 職員が記入することにより、身体拘束をしないケアについて の理解を深め実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしないケアに取 り組んでいる。管理者は研修等に参加し職員全員に指導や伝 達を行い、身体拘束を正しく理解してケアが実践できるよう 努めている。また、法人の拘束廃止虐待防止委員会が作成し たチェックリストを職員全員で毎月記録し、不適切なケアが 行われていないか振り返るようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ユニット会等で介護上注意しなければならないことを話し合っている。特に言葉での虐待がないよう心がけ、説得ではなく納得して頂けるよう気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設前の研修中に、権利擁護の研修を行ったのみで、学ぶ機会を持つことができなかった。今後研修会への参加や、内部勉強会等で職員への周知、理解を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前の調査時や契約時に時間を取り、ご家族、ご本人に対して説明を行い、入居の意向を決めて頂いている。入居前にセンター方式を使用しご家族から情報を得ており、それをもとに入居後の生活を説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話等で日頃の様子を伝えたり、ご家族の意見や希望を伺っているが意見や希望は少ない。また正面玄関にご意見箱を設置している。 (外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加して、意見や思いを言い表せる場として活用されている。また、家族の面会時や家族会開催時には意見や要望を聞くように努めている。開設して間もないため、家族からの意見等はあまり聞かれないが、管理者から些細なことでも迅速に対応しようとする姿勢が伺える。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個人面談の機会を設け、職員の思いや意見、提案を聞き反映できるようにしている。そのほか職員会、リーダー会、各種委員会、ユニット会等を毎月開催し、様々な視点で職員の意見を聞くよう努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るように努めており、働きやすい職場環境や関係づくりを目指している。職員は日々の業務の中で気がついたことを管理者に話すことができ、ユニットリーダーを通じて意見を伝えることもできる。また、管理者はチームケアの重要性を認識し、職員間で話し合うことが大切であると考えており、若い職員の豊かな発想などを取り入れ、実現するように努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 希望者には、正職員登用の機会を設け、意欲を持って働けるよう環境整備を行っている。また勉強会や研修等への参加を積極的に促し、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修の情報を開示し、希望する研修や必要な研修に参加できるよう支援している。研修参加後は、研修報告の場を設け、全職員への周知を図っている。今後は職員の段階に応じた年次研修計画を立て、総合的な人材育成に取り組みたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の研修会に参加し、他の事業所と交流することはあるが、相互訪問等の機会は持っていない。伊方町の保健介護課に町内の事業所が一同に会し、交流できる場を提供して頂きたいと依頼をしている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の面談時にご本人やご家族の思いを聞き取っている。また可能な方にはご家族に、センター方式を記入してもらい、思いや要望を伝えて頂いている。入居後は、担当職員を中心に馴染みの関係を作り、安心して過ごせるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が入居前に見学に来られた際や入居時には、全職員がその場に立ち会い、直接要望や意見を聞き今後のケアに生かせるように取り組んでいる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面談、担当ケアマネジャーからの情報により柔軟に対応している。家族面談時等に必要に応じて相談窓口（包括支援センター）の紹介や他のサービス利用について情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の生活の中で、家事や料理等できることを一緒に行いながら、ご利用者から色々なことを教えて頂いたり、励まされたりしている。常に人生の先輩として、尊敬・尊重し、感謝の気持ちを言葉にして伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回広報では、ご利用者が直筆でご家族に手紙を書いている。また面会に来られた際には、ご利用者の生活の様子や変化を伝えると共に、ご家族からも希望等を伺いながら、ご利用者を一緒に支えるよう協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の美容室から散髪に来てもらったり、行きつけの美容室へパーマをかけに行ったりしている。また文化祭や秋祭り等の地域行事への参加や、ドライブ、ふるさと訪問は、近所の方と出会い旧交を深める機会となっている。 (外部評価) 利用者は行きつけの喫茶店にケーキを食べに行ったり、行き慣れた美容室に出かけられるよう支援している。友人や知人の訪問時には、職員は快く向かえ入れている。手紙を書く利用者には、連絡を取り持つ等の支援を行っている。毎月、発行する「にこにこ通信」には、利用者に一筆添えてもらい送付しており、家族は大変喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングで皆が集まり、食事や会話を楽しみ穏やかに過ごせるよう、お互いの関係性に考慮しながら声かけや介入をしている。また交流ホールを利用してユニットを越えた人間関係も重視し、気分転換を計っている。常に一人ひとりのペースを尊重しながらも孤立しないよう配慮し支援している。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約を終了した事案がない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使い、情報収集している。またカンファレンスにはご本人にも参加して頂き、希望や意向を伺っている。困難な場合は、24時間シートを活用し様々なサインを見つけ出せるよう努め、ご本人の思いや意向に添えるようカンファレンスで検討している。 (外部評価) センター方式を活用し、家族への協力を得ながら情報を収集し、利用者の思いを把握するよう努めている。日頃から職員は日々の生活の中で利用者向き合いながら、会話から思いや意向を聞き取るよう努めている。思いの把握が困難な利用者には、24時間シートを活用し把握できるよう努めている。また、カンファレンスには、利用者自身にも参加してもらい、意向を確認している。管理者は、職員全員で利用者寄り添いながら支援できるような体制を築きたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートやセンター方式の活用し、家族との面談時に聞き取りをしている。また入居前には担当ケアマネジャーより在宅での生活の様子等入居までの経過を情報提供していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し職員間での情報の共有と連携を図り現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々のモニタリング、ケース記録、アセスメント、ご本人、ご家族の希望をもとにカンファレンスを定期的に行いケアプランを作成している。毎月の受診時に主治医から助言をいただき、ケアに活かしている。ご家族の希望や意向を聞いているが、特にないとされる方が多く課題である。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映して、計画作成担当者と管理者を中心に話し合い、介護計画を作成している。事業所では介護計画とモニタリング等をすべてパソコンで管理しているため、職員全員が容易に内容を把握し共有することができる。開設して1年が慌ただしく過ぎ、管理者は介護計画が内容的にも充実したものになっているのか、今後利用者一人ひとり見直しを行い、より良い介護計画となるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子、新しい気づきや発見をケース記録に残し、職員共通の理解のもと取り組んでいる。問題点があれば毎月のユニット会で意見交換し対応を検討している。時に確認不足から、職員間での情報の共有が出来ていないこともある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況や要望に合わせて、計画的な行事だけでなく、自宅訪問やドライブ等、ご利用者からの訴えや希望にできるだけ沿えるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の訪問美容サービスや茶道クラブ、和尚さんによる法話等地域の方達と協働し、様々な行事を行っている。また地域の催し物の情報を得て参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人やご家族の希望によりかかりつけ医を決め、受診して いる。特養の嘱託医をかかりつけ医としているご利用者は、 月に2回の訪問診療を受けており、夜間や休日の対応も可能 となっている。またかかりつけ医からの紹介による専門医の 受診や歯科受診等は職員が付き添い支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援してい る。往診をしてもらえることなどから協力医をかかりつけ医 に変更する利用者もいる。月2回、協力医の往診や訪問歯科 診療があり、利用者の健康管理をしている。基本的に家族が 同行し受診することとしているが、困難な場合には職員が同 行し、受診結果を家族に報告している。緊急時は協力医のみ でなく、その他のかかりつけ医も快く対応をしてくれてい る。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週1回併設特養の看護師による、バイタル測定や医療面に關 する助言やアドバイスを頂いている。看護師とは24時間連 絡が取れ、常に相談に応じてもらえる体制を整えている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時にはご家族同席のもと必要な情報を伝え、また退院時 には、医療連携室を通じて入院時の様子や退院後の生活にお ける注意事項等の情報交換を行っている。また病院関係の研 修会にも参加し関係作りを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や看取りの指針を定め、入居時にその説明を行い同意 を頂いている。まだ看取りの経験はないが、毎月看取り委員 会を開催し、重度化への対応や看取りの指針、マニュアルを 作成し、ご本人やご家族の意向を確認しながら、医師、看護 師、職員が連携し安心して最期を迎えられるような支援に取 り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における（看取り）指針」を定め、協力医 と連携を図りながら看取りに取り組む姿勢がある。利用者や 家族の意向をその都度確認しながら、利用者の思いを大切に して終末期を過ごせるよう取り組む方針である。看取りなど の勉強会や話し合いを行い、職員への終末期等への不安を取 り除けるよう努めていく姿勢がある。</p>	<p>今後、終末期や看取り支援を経験することが考えられ るため、終末期の支援のあり方や事業所の対応を段階 ごとに利用者や家族、医師等と話し合い、意向を確認 しながら、対応方法を職員全員で共有していくことが 望まれる。また、職員が終末期等への不安を感じるこ とがないようミーティングや勉強会を繰り返し行い、 利用者や家族が希望する看取り支援が行える取組みを 期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。今後定期的に応急手当や救命処置の研修を取り入れ実践に対応できるようにしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署も参加し避難訓練を実施している。その際消防署より全員避難に時間がかかりすぎると指摘を受けた。運営推進会議で地域の自主防災組織の協力が得られると助言をいただいたので、今後地域の支援、協力体制を築いていく予定である。 (外部評価) 開設して1年が経過し、消防署の協力を得て避難訓練を2回実施している。町から指摘された課題を踏まえて、今後は地域住民の参加協力を得た防災訓練が行えるよう体制づくりを検討している。事業所は地域の避難場所に指定されており、地域との協力体制を整え、利用者や地域住民の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組む姿勢がある。また、3日分の備蓄品等を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人生の先輩であることを意識し、援助の際だけでなく日々の生活の中での言葉遣いや対応を徹底し、話し合いや見直しをしているが、まだまだ徹底できていない。 (外部評価) 「誠実、尊重、尊敬」を3Sとして、職員全員で意識しながらケアに取り組んでいる。管理者は、利用者の人格を尊重するためには丁寧な言葉づかいをすることが大切であると考えており、職員全員が正しい言葉づかいを理解し、利用者のプライドを傷つけない配慮が行えるよう指導している。その配慮は、利用者同士にも伝わっており、相手の言葉を否定しない和やかな対話を聞くことができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者が答えやすいような質問の仕方をしたり、表情を読みとったりとその方に合わせた声かけを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースや希望に沿えないこともあるが、できるだけその人の暮らしのペースの中にさりげなく関わっていきけるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝、時候に合った洋服を選んで着ていただき、洗面台で整髪してもらっている。爪にマニキュアを塗ったり、出張美容では、ご本人の希望によりパーマや毛染めを行いおしゃれを楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを伺い、献立に取り入れている。好みに応じて、食材や調理方法を変更、代替等の対応している。毎日食事の準備から後片づけまで、ご利用者と一緒に楽しみながら行っている。お願いしなくても、ご本人がしようという気持ちがあれば、自主的に手伝って下さる。 (外部評価) 献立は、月2回行事メニューを取り入れ栄養委員が作成し、職員が調理をしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、笑顔で会話しながら食事をしている。誕生会には、地元のケーキ屋さんにてケーキを注文して提供している。食事の用意や片付けなど、利用者ができることを積極的に手伝っている。また、食事を楽しむことができるよう外食や流しそうめん、たこ焼きパーティなどを取り入れている。今後は、利用者の嗜好調査をして一人ひとりの好みを把握して、食事に楽しみが持てるよう支援していく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量の確認を行い、食事量が少ない時には、好きなものを、食べられるものを提供している。毎月介護力向上委員会を開催し水分1日1500cc摂取を目標に掲げ、好みの飲み物やこまめな水分補給で水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ほとんどの方は、毎食後声かけを行い、義歯洗浄、ブラッシングを行っているが、拒否される場合もあり確実には行えていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、失禁を減らすよう努めている。また介護力向上委員会の取り組みにより、紙パンツから布パンツへの変更にも努めている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。失禁のある利用者には紙パンツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせた排泄支援をしている。トイレは清潔で、車いすでもゆとりを持って使用することができる。トイレには、はね上げ式アームレスト等が備えられ利用者がより安心安全に使用できるよう配慮している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排泄チェック表により排便の有無、量や状態の把握を行っている。介護力向上の取り組みに基づき、食事、水分、運動に留意するとともに、食物繊維ファイバーを飲用し、できるだけ下剤に頼らず自然排便できるよう支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 同性介助で入浴を行っている。最低2日に1回の入浴となっているが、ご本人の希望や体調に合わせていつでも入浴できるようにしている。夜間のみ希望されても実施できていない。</p> <p>(外部評価) 利用者は2日に1回入浴することができる。利用者の希望に沿った入浴支援を心がけており、希望により毎日入浴することもできる。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫している。入浴はできる限り同性介助を心がけており、心地よく入浴ができるよう支援している。バスタブは檜で作られており、使用後は取り外して乾燥させ、清潔に保っている。浴室は、檜の香りがよく利用者が楽しんで入浴できるよう工夫している。また、特殊浴槽も完備されているが、現在使用している利用者はいない。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夕食後は一人ひとりのペースを尊重しながら、就寝だけでなく、休息が必要な方には、日中も休んで頂けるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の服用している薬のファイルを作成し、種類、作用、量について理解できるようにしている。また症状の変化は、ケース記録に詳細に記入している。誤薬や飲み忘れを防ぐために、マニュアルに従い2名でチェックし配薬している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事や調理等、その方にあった役割を楽しんで行えるよう支援し、感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。荘内外を散歩したり、ホールから海を眺めたりと穏やかな時間の流れの中で気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの外出支援は難しいが複数での外出ドライブは定期的に行っている。頻度は少ないが、自宅付近を散策したり、ドライブに行っている。	
			(外部評価) 玄関先や建物周囲は広く、日頃から敷地内を散歩したり、敷地内にある畑に職員と一緒に水やりをしたりしている。定期的に地域行事に参加したり、ゴミ捨てに行くなど、利用者が少しでも外に出る機会を作っている。また、高台の玄関から大海原を見渡しながら、ベンチに座り外気浴を楽しむことができる。年間行事やドライブ計画を立て、初詣や足湯に出かけ、利用者が楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に現金は預からないことを説明し同意を得ている。外出時には立て替え払いをしている。欲しい物や必要な物は職員が代わりに購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎月発行している広報の伝言板に、ご本人からご家族へのメッセージを書いて頂いたり、職員が代筆してご家族に伝えている。希望時には電話をかけた取り次いだりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 適切な温度や湿度調整を心がけている。花の好きな方が多いので常に花を生け、季節を感じられるよう工夫している。トイレが解るように張り紙をししたり、季節に応じた壁面づくりも行っている。</p> <p>(外部評価) リビングは明るく広々としている。畳コーナーやソファが置かれ利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。テーブルには利用者が活けた花が飾っており、廊下の壁にも利用者が作成した作品や書が飾ってある。環境整備が行き届いており、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮している。また、窓から見えるパノラマは絶景で、利用者や訪問者は眺めを楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食卓以外にテレビを見られるように畳コーナーにこたつを置いたり、ソファを置き、気分に合わせて色々な場所でくつろげるよう居場所を作っている。それぞれ気の合う方同士で話をしたり、自由に過ごされている。食事の席は、ご利用者がストレス、不安を感じないようお互いの関係性を配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご本人にとって大切なご家族の写真や家具等、できるだけこれまで使用していた物を持ち込んで頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやクローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。利用者の使い慣れた椅子や整理たんす、テレビ、仏壇等を持ち込むことができ、家族との写真や家族を描いた絵が飾るなど、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。また、ハギレを使用して職員と利用者が一緒に作った暖簾がそれぞれの居室にかけられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「わかること」「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い、今ある力を最大限発揮できるよう支援している。</p>	